

# 輪之内町小中学校「ひびきあい活動」

令和元年12月

## < 実践 1 小学校 >

### 【学校が培いたい行動力】

自分や友達の大切さを認め合い、互いの気持ちを考えて行動する。

#### (1) いじめ0宣言

- いじめが起きない、起こさない学校づくりを目指し、児童が主体となって「いじめゼロ宣言」を策定し、毎日下校時に唱えている。

#### (2) かがやきみつけ

- 教師が意図的に児童のよさを価値付ける取組「かがやきみつけ」を年間通して行っている。児童のよさを、毎日下校時に全校の前で価値付けている。
- 全学級で帰りの会に「かがやきみつけ」という仲間のよさを紹介し合うコーナーを位置付けている。中学年では、「みんなのために」「人を思い合う心」「コツコツ努力」など、その言動はどんな価値があるのか、道徳的価値項目と関わらせた「かがやきみつけ」を行っている。

#### (3) あいさつタッチ

- 子ども同士のあいさつに力を入れている。毎週「0」が付く日や週の始めの朝は「あいさつタッチタイム」を設け、学級全員の子とあいさつタッチをしている。

#### (4) 思い合う心キャンペーン・思いやりの花集会

- 人権週間にあわせて、本校では11月初旬から、2つの取り組みを行った。1つ目は、「心あったかポスト」の設置である。ポストに入れられた「思い合いカード」や「言われていやだったカード」を、計画委員が放送で紹介した。また、福祉委員会では、「思い合う心キャンペーン」を行った。クラスでその日の目標を立て、達成度を評価した。これを2週間続けて行い、その成果と課題を、「思いやりの花集会」で各学級が発表した。また、福祉委員会が全校に広めたい姿を具体的に紹介した。学年の取り組みを通して、相手のことを考えた言葉や行動ができるようになったことを成果として紹介したり、今後大切にしていきたいことを課題として紹介したりした。



1年生の取組発表



クラス全員とあいさつタッチをする様子



思いやりの花集会で発表する1年児童

#### (5) 人権教室

- 全校で「人権教室」に参加し、「ひとつの花」の劇を鑑賞することを通して、人権について理解したり考えたりしたことについて交流した。「命の大切さ」「自他がかけがえのない存在であること」を考えることができた。



## 【成果】

- 教師が児童のよさを価値付ける取組「かがやきみつけ」を位置付けていることにより、活動を支えている思いや行動の価値に気付く児童が増えてきた。
- 人権週間中の児童会からのキャンペーンによって、だれかを特別な呼び方で呼ぶことは差別につながることを確認し合った。そのことで、「さん」づけをする児童が増えた。また、各クラスの実態に合った取り組みを行ったことで、1人ひとりの人権に対する意識まってきた。

## < 実践 2 小学校 >

### 【学校が培いたい行動力】

相手の気持ちを考えることができる心情や態度の育成

- ・学校や地域の人に進んで挨拶ができる姿
- ・仲間に素直に「ありがとう」と言える姿
- ・仲間のよい姿や言葉を認め合える姿

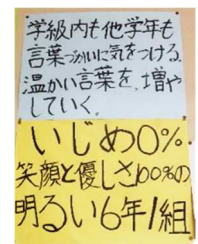
#### (1) よいこと見つけ

行動力の育成を図るため、年間を通して「よいこと見つけ」を行なっている。児童同士が見つけたよい姿は担任が作成した用紙に記入し、学校職員、支援員等が見つけたよい姿は、人権主任が作成した全校統一のピンクの用紙に記入し、掲示している。生活委員会の挨拶や廊下歩行などのキャンペーンでよかった児童に渡し、お昼の放送でも紹介している。



#### (2) 「ぼかぼか宣言」(人権宣言)

4月に、学級の仲間に優しい心や優しい気持ちをひびかせるために「ぼかぼか宣言」を各学級で決め、全校に発表した。12月のひびきあい集会では、中間振り返りとして、学級の現状と課題について報告した。



#### (3) 全校朝会(人権主任・生活委員会)

「ぼかぼか宣言」の取組・「フラワープロジェクト」の説明、ひびきあい集会の流れを生活委員会の児童が全校に向けて説明した。

人権主任からは、様々な人権や権利について、日本国憲法第14条の紹介をした。また、『とげとげ(内田麟太郎・文)』という関わり合い方について考える絵本の読み聞かせや、人との関わり合い方について話し、人権について深く考え、行動していくよう投げかけた。



#### (4) コミュニティ・スクールフェスタ

P T A主催で、11月9日に人権をテーマに、ファミリーコンサートが開かれた。改めて「人権って何だろう。」と子どもも大人も考えることができた。



## (5) 全校朝会 (校長)

「いじめ」によって自らの命を絶ってしまった子や、その子の母親の思いを紹介した。また、その時に話された内容や、フラワープロジェクトの取組について「学校だより」第9号で掲載し、長子児童の家庭に配付され、学校のホームページにも掲載した。



## (6) ひびきあい集会

### ① 学級ごとの「ぼかぼか宣言」について発表

各学級で作成した「ぼかぼか宣言」で取り組んできた成果や課題を、中間振り返りとして発表した。



### ② 「フラワープロジェクト」成果報告

この活動では、人にしてもらって嬉しかったことやすごいと思ったことなどを具体的に書き、菊の花を模した紙に記入した。期間中、生活委員が各学年がよさ見つけに書いたことをお昼の放送で発表し、よさ見つけの温かい心を広めた。



### ③ DVD『プレゼント』（岐阜県地方法務局より貸出）の上映

「いじめ」についてのアニメのDVDを視聴した。軽い気持ちで行ったことがいじめに繋がり、人を悲しい思いにさせてしまう場合があることを確認することができた。その後、ひびきあい集会で感じたことを感想用紙に書いた。

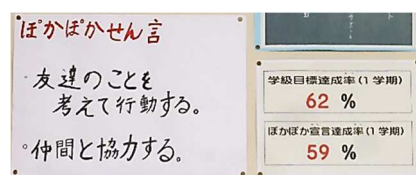


## (7) 「よいこと見つけ」の継続

「フラワープロジェクト」で培ってきた、仲間のよさを見つける行動力を継続するために、事後も「よいこと見つけ」を継続して行なう。学級内だけでなく、たてわり班活動や、様々な学校生活において他学年と関わり合う中で、他学年のよさも見つけて、広めていく。

## (8) 「ぼかぼか宣言」の振り返りの継続

「ぼかぼか宣言」の中間振り返りまでに得た成果を生かし、課題は3学期最後まで成果に繋がられるよう、継続して取り組んでいく。



## 【成果】

「学校が培いたい行動力」を育成する意図的・計画的な取組について

- 「よいこと見つけ」や、強化月間として「フラワープロジェクト」を行なうことで、よさを「具体的に」書けるようになってきた。・相手の細かい所まで、よさを見つけてようという意識が高まった。
- もっとよさを広めたいと思う子が増えた。
- よさを見つけて菊の花を大きくしたいという思いで、1日1枚は「よいこと見つけ」を書き、1枚以上書きたいという子も増えた。

## 様々な人権課題の理解や日常生活につながる継続的な取組

- 朝活動の前に生活委員と一緒にボランティアで各学級を回って挨拶をする児童が増えた。
- 全校朝会で校長先生が人権について話したことで、児童の人権への理解を深めることができた。

## < 実践 3 小学校 >

### 【学校が培いたい行動力】

相手の立場や気持ちを尊重し、共に認め合い励まし合うことで、自分から「あったか言葉」を言うことや、仲よく遊んだり助け合って活動したりすることができる。

#### (1) 年間を通した取り組み

- ① 教育相談（年間）月に一回「心のアンケート」を行い、児童の心の悩みを把握して、担当者との連携による教育相談を実施する。
- ② あったか言葉キャンペーン（1学期、2学期の2回）  
児童会が中心となり“あったか言葉”に対する取組を各学級で行う。
- ③ 挨拶運動  
プログラム委員、各委員会委員長、副委員長、学級代表などが「あいさつするンジャー」になり、登校後の片付けの時間帯に、学級へ挨拶をしに行く。
- ④ わかたけ遊び  
児童が主体となり計画・実践していく縦割り集団遊び。

#### (2) 人権週間

- ① 昼の放送（人権教育担当者）
  - ・人権週間について
  - ・人権自己診断クイズ～こんなときどうする～（法務省HPより）
- ② ひびきあい集会
  - ◇ 1年生：「にっこにこ」を合い言葉に励ましや感謝することを大切にしてお互いに気持ちよく過ごしていること
  - ◇ 2年生：生活科「おもちゃランド」で一年生に楽しんでもらえるように工夫したこと
  - ◇ 3年生：学年の4つの取組紹介（①プリント配布の時には「どうぞ」「ありがとう」の声を掛け合うこと②学年遊びを企画したくさんの子を知り合うこと③挨拶すること④教え合うこと）
  - ◇ 4年生：保健体育「体の成長による男女の差」から学習したこと
  - ◇ 5年生：荒神山研修（町内三小学校合同宿泊学習）で誰とでも仲良くすることの取組から
  - ◇ 6年生：総合的な学習の時間 デイサービス訪問や高齢者疑似体験等から

#### あったか言葉キャンペーン

学級ごと、増やしたい“あったか言葉”を決め、取組期間中に多くの児童が使えるよう意識を高めた。配布物の受け渡しの際の「どうぞ」「ありがとう」など生活の中の些細な言葉も取組を介して自然に言えるようになった。些細な言葉がけが人間関係を築き双方の心を穏やかにすることを体感させることができた。



#### 挨拶運動

1学期はプログラム委員や委員会委員長による挨拶リーダー（あいさつするンジャー）も、2、3学期には段階的に副委員長や学級代表も参加する。校舎のあちこちで「おはようございます!!」が響き合う。



## ひびきあい集会

### ○あったか言葉キャンペーンの取組発表

2回の取組の比較をグラフ化し、言葉遣いがよくなってきていることや感想などを共有した。



### ○人権講話

いじめの傍観者になってはいけないことや相談の方法が様々あることなどを学んだ。



### ○各学年の発表

日頃の生活科や総合的な学習、保健体育などの中で学習・活動したことを人権的な観点で画像を使って分かりやすく交流した。学年段階に応じて相手を思いやる行動について価値付け、広めることができた。



## 【成果及び課題】

### 「学校が培いたい行動力」を育成する意図的・計画的な取組

- 年間を通した繰り返しの活動を通して、行動力を高めていくことができている。また、毎年継続していくことで、あいさつの姿や下級生に優しい言動など望ましい行動が、伝統として子どもたちに受け継がれている。
- 「ひびきあい集会」で、各学級の取組における児童の具体的な姿を紹介したことで、発達段階に応じた目指す姿を全校で共有することができた。

### 様々な人権課題の理解や日常生活につながる継続的な取組

- 毎月の「心のアンケート」にいじめや「さんづけ」の調査項目を設け、児童の人権感覚の継続的な振り返りを行うことで即時的な指導や助言ができている。

## < 実践 4 中学校 >

### 【学校が培いたい行動力】

- ◎ 互いを尊重しだれとでも温かい人間関係をつくり出そうとする行動力の育成
  - 〔1年〕自分の考えや意見を率直に出し合い、相手の立場や意見を尊重しながら共によりよい生活をつくり上げようとする行動力
  - 〔2年〕自他の役割を自覚し、助け合い、励まし合う人間関係を築き、互いを高め合い、共によりよい生活を実践しようとする行動力
  - 〔3年〕偏見や差別を許さない心を育てるとともに、社会の一員であることを自覚し、様々な人と分かち合って、よりよい生活を築こうとする行動力

### (1) 事前の活動

- 「温かい言葉がけ」の啓発（PTAとの連携）
  - PTA活動に位置付け、普段、何げなく言葉を交し合う親子や家族、知人や友人との伝え合いを取り上げて、言葉のやりとりに込められた心温まる思いや願い、エピソードなどを広く募集

して交流し、互いを思いやることの大切さを確かめ合った。

- 人権週間の期間、校内放送を通じて保護者及び生徒、職員から応募のあった「温かい言葉かけ事例」や集会の感想を紹介し、日常生活において思いやりや心遣いのある言動を交わし合うことの大切さを啓発した。

## (2) 中心となる活動

### ○ 「ひびきあい集会」

- 人権教育に関する講話を聴いて、日頃の自分の言葉、行動、学級や部活動における他者との関わり方について振り返り、互いを尊重し合って生活しようとする意欲を高める。
- 日常生活において、親子や家族、知人や友人と交わし合う言葉に込められた心温まる思いや願い、エピソードなどを交流し、互いを思いやることの大切さに触れる。

- ① 「輪中人権宣言」(平成19年度策定)の説明
- ② 「温かい言葉かけ」事例の交流(生徒、保護者、家族、教員)
- ③ 人権講話
- ④ 校長講話



温かい言葉かけの発表



人権講話



校長講話

### 「温かい言葉かけ」紹介

学年	《温かい言葉をくれた人》 言葉	込められた思いやエピソード
3年生	《仲間から》 体育の時間、バスケットボールの経験が少ない人ばかりのチームでした。 リーダーの子が一人一人にアドバイスをして、「そんな感じ」「昨日よりもできるようになったね」と声かけをしてくれました。うれしかったし、やる気になりました。	〇うまくできなくても、責めるのではなく、逆に励ましたり、上手くできるようになったことやどうすれば上手くできるようになるかを具体的に教えてくれることがなかなかできないしすごいと思いました。
3年生	《仲間から》 私は上手いかないことがあるとすぐに落ち込んでしまいます。音楽祭の準備や仕事が上手いかず、泣いていた私をクラスの仲間が「大丈夫？」と優しく声をかけてくれました。「頑張りすぎなくていいんだよ」と励ましてくれた友達に感謝しています。	〇「頑張りすぎないで」と心配してくれる友達がいる、とても心が温かくなりました。上手いかないときも、友達や仲間がいてくれると安心します。
2年生	《友だち》 勉強や部活動、学校のことなどでうまくいかないことやいやなことがあって、何もかもにやる気がなくなって悩んでいる時がありました。そんな時に友達が、「大丈夫？私でよかったら聞くよ！」「大丈夫だよ。そんなに考え込まなくていいんだよ。」と声をかけてくれました。その一言ですごくうれしい気持ちになりました。	〇「私でよかったら聞くよ！」と相談に乗ろうとしてくれたり、「そんなに考え込まなくていいんだよ。」と温かい言葉をかけてくれる友達がいるからこそ、辛いことがあっても頑張ろうと思えて、その一言が自分の心の支えになっています。
2年生	《地域の方》 毎朝、交差点に小中学生の登校を見守っている地域の方がいます。私が交差点で信号が変わるのを待っていると、私のところまで来て、「おはよう、行ってらっしゃい」と声をかけてくれます。	〇私たちが安全に登校できるように声をかけてくれると思うととても心が温まります。私も誰かを元気づけたり、助けたりしたいと思いました。
2年生	《友達》 体育祭のリレー練習の時、友達が抜かれてしまい、「走りたくない」「体育祭休みたい」と相談されました。僕は「腕を振れば速くなるよ」「お前は速いよ」と勇気づけたら、「ありがとう。頑張る」と言ってくれて嬉しかったです。	〇友達が落ち込んでいたので元気を出してほしいと思って、速く走れるアドバイスなど励ましの言葉をかけたら「ありがとう」と言ってくれました。本番友達は自分らしい走りをしていて、僕は安心したし友情が深まりました。

職員	<p>《生徒 3年班長》</p> <p>修学旅行の時に、食物アレルギーのある子がいる班の班長さんが、お店の人にその子が食べられるメニューがあるか何度も確認してくれていました。班長さんに「ありがとう」と伝えると「先生、みんなで一緒に食事がしたいです。」と言ってくれてとても温かい気持ちになりました。</p>	<p>○修学旅行だからこそ、班のみんなが楽しかった、という思い出になるように働きかけてくれた班長さんの、優しさとリーダーとしての力に感動しました。勝手なことをしないで「班のみんな」ということを大切に活動できることにうれしくなりました。</p>
保護者	<p>《子供 3年生》</p> <p>同居している義父が入院している時、仕事、父の世話で忙しく、肉体的な疲れを感じてイライラしていました。そんな私の様子に気付いたのか、子供が「何か手伝えることがあったら僕に言ってね」と優しく声をかけてくれました。</p>	<p>○その時は、自分一人が頑張らないといけないうと思いつめ、精神的にもまいっていたときでもあったので、その言葉に助けられ気持ちが楽になりました。</p>
保護者	<p>《子供 3年生》</p> <p>まだ娘が小さい頃の話です。何気ない会話の中でふと言われた言葉で私の心がじんときんと熱くなり今までの思いが一気にこみ上がりました。「私ね、ここの家族になりたかったの。私を産んでくれてありがとう。」満面の笑みで私の目を見つめて言ってくれた娘の前で思わず涙があふれてきました。今も娘の親になれて幸せと思っています。</p>	<p>○今まで色々と厳しくしてきたこともありましたが、娘が「私を産んでくれてありがとう」という思いでいてくれたのがとても嬉しかったです。今でも時々言ってくれます。「こちらこそ、私の家族になってくれてありがとう。」です。</p>
保護者	<p>《子供 3年生》</p> <p>娘が小学校低学年の頃、折り紙で工作をすることに夢中になっているときがありました。私の誕生日に折り紙で「花」を折ってくれて、それを容器に貼り付けてペン立てを作ってくれました。それにつけてくれたメッセージがありました。「お父さん、お母さんへ、お母さんおいしいご飯毎日ありがとう。お父さん夜遅くまで仕事ありがとう。」</p>	<p>○すべてひらがなの言葉でしたが、間違えずに書いてくれた小さなメッセージカードを見て、とても感動したのを覚えています。きっと1年生くらいだったのでしょう。思いのほか字も整ってきれいに書かれていたので、これは宝物にしようと今でも手帳の間にはさんで持ち歩いています。そして、作ってくれた折り紙付きのペン立ては職場のデスクの上で活躍中です。もうすぐ10年になります。</p>

### (3) 事後の活動

- 「人権講演会」の開催
 

輪之内町社会福祉協議会の協力を得て、おおたわ 史絵さんによる講演会を開催予定。法務省の非常勤医師として刑務所での診療を通して気付かれた人の心と体についてのお話や医師としての生き方に学ぶ。
- 学校ホームページや学校便り等を活用して様々な人権課題を取り上げ、課題解決に向けた取組を啓発し、広く人権について考える機会とする。



### 【成果】

- 生徒会活動や学級活動等で、生徒主体の人権教育を柱とした学校づくりを進めたことは、これまで以上に仲間や相手の思いを考える姿が見られるようになり、いじめ等の人間関係の問題改善につながった。また、ひびきあい集会を通して、地域の方、家族、友達など自分の周りの方との何気ない言葉のやりとりが自分を支え励ましてくれることに改めて気付くことで、自己肯定感を高め、互いを大切にできる行動力につながった。
- 平成19年度に生徒会が策定した「輪中人権宣言」を拠り所に「挨拶運動」や「輝きみつけ」を人権教育の側面から改善したり、PTAや地域の関係団体の協力を得て行う活動を工夫したりするなど、互いを尊重し、だれとでも分け隔てなく接することができる「行動力」を高める活動の工夫改善を図った。
- 様々な人権課題の理解や日常生活につながる継続的な取組

様々な人権課題のうち、同和問題やインターネットによる人権侵害、外国人差別、いじめ等の問題を取り上げ、まずは職員が校内研修を通して効果的な指導方法について理解するとともに講演会など有識者による啓発活動をこれからも取り入れたい。